

医薬品の適応外使用に関する情報公開文書

実施内容	呼吸困難に対するモルヒネ製剤の使用
実施責任者	枚方公済病院 病院長
対象者	がんおよび非がん（COPD/間質性肺疾患、心不全、筋萎縮性側索硬化症）による呼吸困難がある患者
承認日	2026 年 7 月 9 日
対象期間	承認後から永続的
概要	【目的・意義】 モルヒネの呼吸困難に対する作用機序は十分解明されていませんが、呼吸困難の中樞神経系での知覚の低下、延髄呼吸中枢の CO₂ に対する感受性の低下、呼吸リズムを抑制し呼吸数を減少させることによる過剰な呼吸仕事量の軽減、有効な深呼吸の確保、抗不安効果などが関与していると想定されており、呼吸困難に対する薬物療法の中で、中心的な役割に位置づけられています。 進行性疾患患者の呼吸困難の緩和に関するガイドライン 2023 年版(特定非営利活動法人 緩和医療学会)では、呼吸困難を有するがん患者に対するモルヒネの全身投与が推奨されています。(強い推奨、エビデンスの確実性は中程度)ただし、投与後の呼吸困難緩和効果、傾眠などの有害事象評価を適切に実施し、効果が得られない場合や有害事象が大きい場合には、中止をすることとされています。 【安全性について】 呼吸困難に対する使用は保険適用外であるため、少なくとも日本での安全性は十分には確認されていません。 モルヒネの主な副作用は、便秘、悪心・嘔吐、眠気です。便秘は少ない量でも生じるため、便秘治療薬の併用が必要になることが多くあります。悪心・嘔吐は 30～50%の患者に生じると言われており、必要に応じて制吐剤を使用します。その他の副作用としては、せん妄、排尿困難(尿閉)、掻痒などがあります。 【健康被害発生時の治療および補償】 万一健康被害が発生した場合には、健康保険診療により速やかに治療いたします。その場合の自己負担分はお支払いいただきます。入院を要する程度以上の健康被害が発生しても、医薬品副作用被害救済制度（医薬品医療機器総合機構）の対象外となります。
お問い合わせ先	枚方公済病院 各診療科担当医師 電話：072-858-8233(代表)